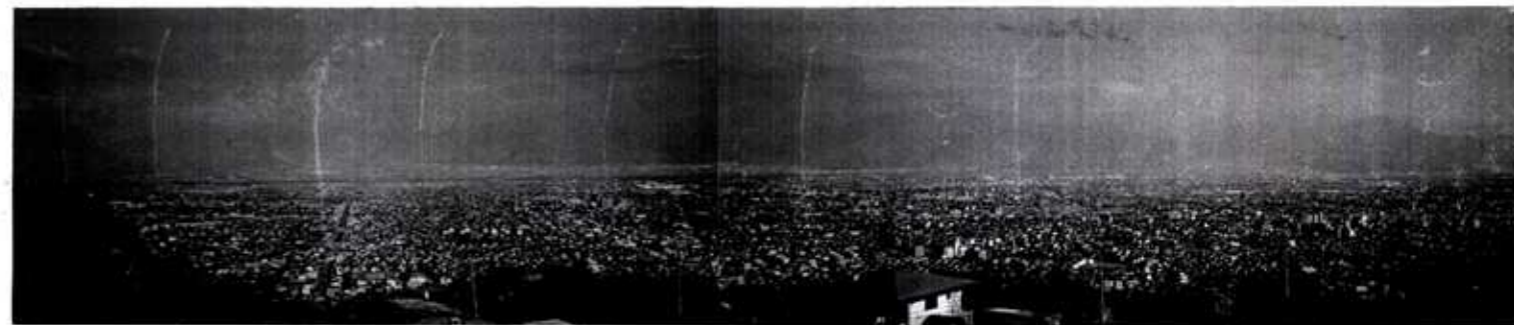


Don't forget and don't forgive

～地附山地すべり地復旧計画～

TOSHIKI KOBAYASHI



地附山からの景色

CONCEPT

毎日、世界中至る所で事件、事故、災害が起こっている。私達はそれらを何らかのかたちで知ることになる。だが、私達がみているものは表面上のものにすぎない。絶えず新たなことが起こるため表面しか知らない。私達は次から次へと起こる事件、事故、災害から何を学んでいるのか。

私達は何を感じ、何を学んでいるのだろうか。毎日、同じような事件、事故、災害が繰り返される。果たして明るい未来は、まっているのだろうか。

私達は多くを学ばなければならない。私達は新たに起こる事件、事故、災害によって、ある物事について学ぶ前に記憶の中から遠ざけてしまう。過去のことを風化させていってしまう。

事実を風化させず、そのことを残していくことで、私達は同じ過ちを繰り返さないであろう。私達は明るい未来がつかれるだろう。

このような問題設定を胸に私は、長野盆地のあらゆる場所からみることのできる地附山に大きな力を感じ敷地として選択した。17年の歳月によって地すべりという災害は、風化を辿るいっぽうである。このままで良いのだろうかという思いから、私は今回、地すべり後この地をどう復旧させるべきかを考えた。地附山の持つ力を活かし、自然と人間と建築と街の関わり合いを地すべりという1つの災害をきっかけに学ぶ施設を創る計画とした。

建築の形態としては、周辺の緑化に伴いつつも街に存在感をあらわにするモニュメンタルな建築とすることにした。そのことによって、緑化によってより自然の姿へ近付こうともここでの事実を残せるからである。建築物は、地すべりという発想から構成した。この復旧計画によって、人々は街と自然と人々の新たな関係性を切り開くことができる。

施設概要

必要とされる施設機能は、地すべりのことを知るための展示棟、地すべりを防いでいくための研究を行う研究棟、地すべりを語り継いでいくための講堂である。これらは、地すべり以外のことも組み込まれる。

展示棟

NATURE 地すべりの様子 災害のメカニズム 地附山の地質
展示物 巨大模型 災害の残骸 カットされた地質
HUMAN 災害によって起こる人間模様 報道機関
展示物 写真やパネル
LIFE 復旧作業 防災対策 防災街づくり
展示物 復旧作業物 街模型 防災設備
→地すべりをきっかけとして関連する他のことも学ぶ
そして、自分の暮らす街を眺める

研究棟

災害の被害を最少ににくいとめていくために、地すべりをはじめ地盤災害の研究
研究内容…斜面の安定工事、災害の予測、地盤の耐久性 等
→人々は実験の様子をみる事が可能で、結果は情報コーナーで知ることができ、今自分のいる環境をすることができる。
講堂

災害を人から人へと伝えるためや、研究発表によるシンポジウム
→人々が交流する
外部空間

人工物と自然を回遊する。公園空間として人々の憩いの場となり、山、街を眺める。



敷地の特性

ここは1985年7月26日地附山地すべりが起きた場所である。この地すべり災害は、死者26名を出す程の規模の大変大きいものである。周辺は住宅地がひろがり、長野市街地と隣接し、観光地の善光寺からも近く、JR長野駅からは自動車で約15分程の場所である。

地附山と人間のつながり

古墳の存在 5世紀後半

大昔から関係をもつ

遊園地とスキー場

人が山を楽しむ

バードラインの開通

人が山を利用する

地すべりが起こる

人と山に距離ができる

復旧作業

コンクリートの要塞

現在

緑化と公園計画

人が山を楽しむ

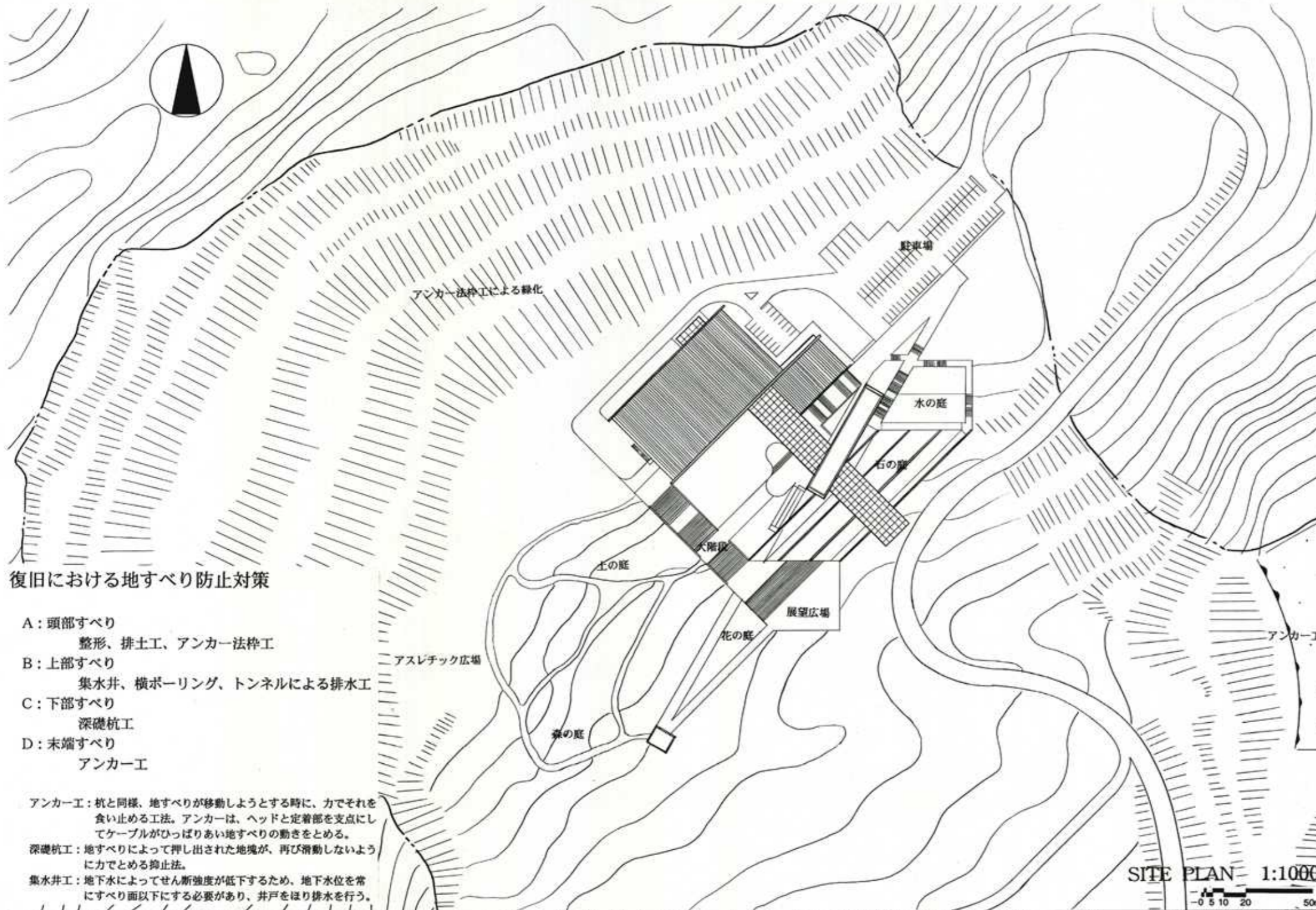
計画案

緑化と公園と施設計画

人が山から学ぶ

近年





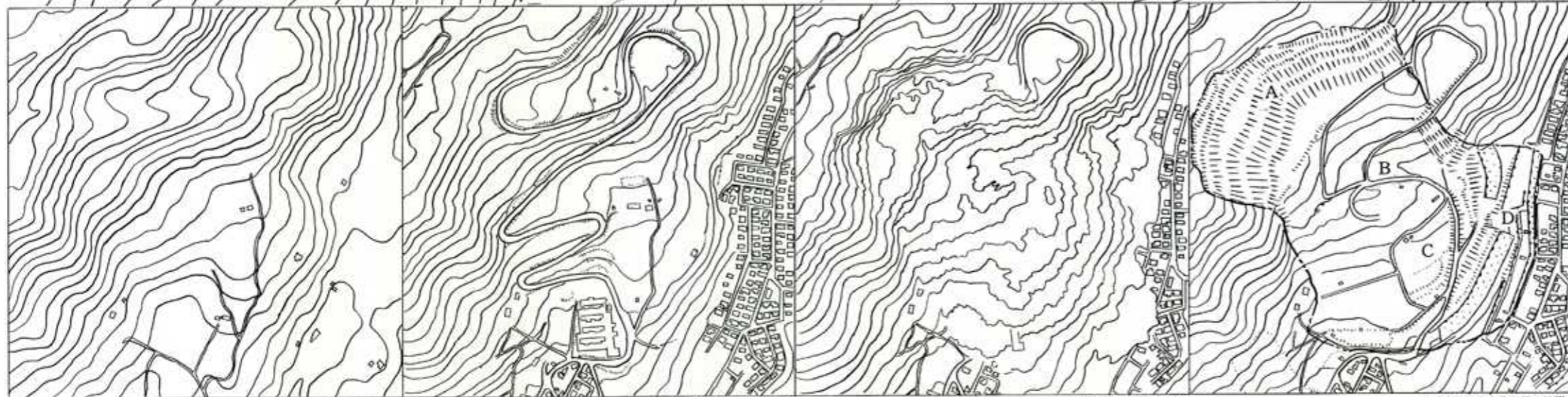
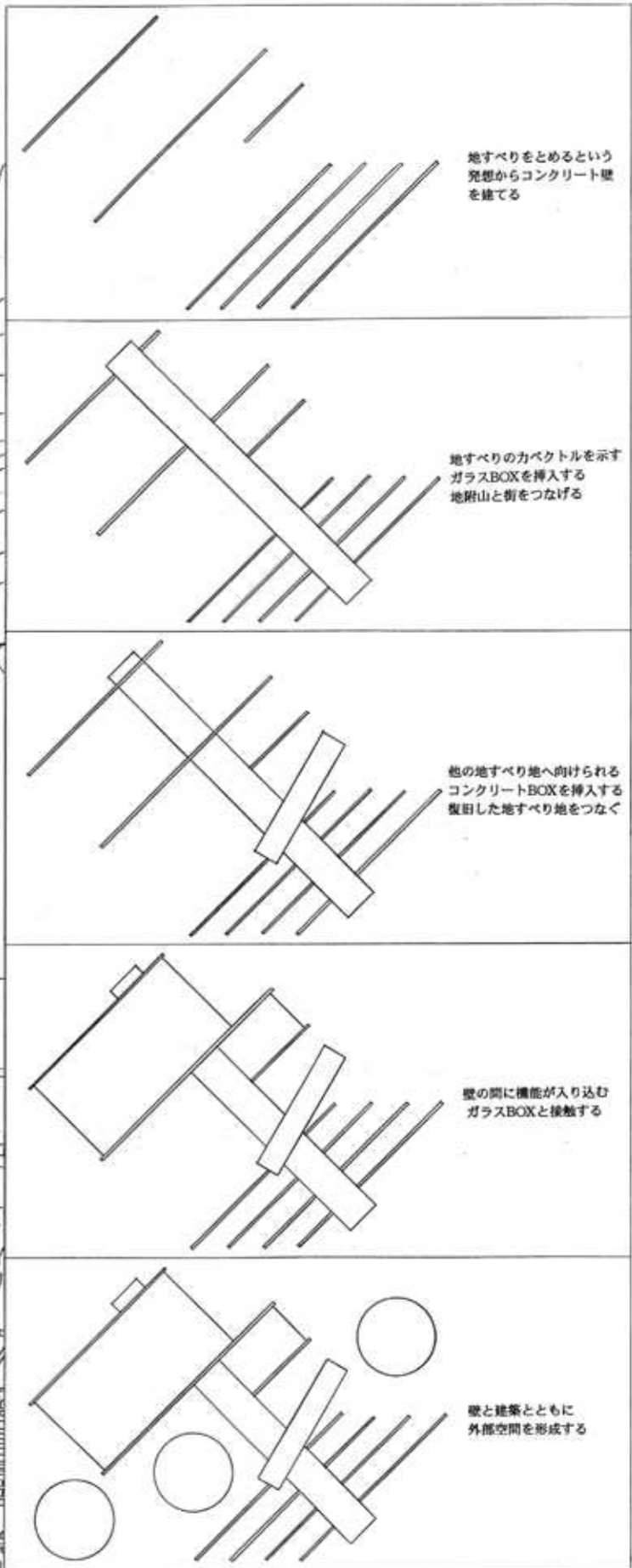
復旧における地すべり防止対策

- A: 頭部すべり
整形、排土工、アンカー法砕工
- B: 上部すべり
集水井、横ボーリング、トンネルによる排水工
- C: 下部すべり
深礎杭工
- D: 末端すべり
アンカー工

アンカー工: 杭と同様、地すべりが移動しようとする時に、力でそれを食い止める工法。アンカーは、ヘッドと定着部を支点にしてケーブルがひっぱりあい地すべりの動きをとめる。

深礎杭工: 地すべりによって押し出された地塊が、再び滑動しないように力でとめる抑止法。

集水井工: 地下水によってせん断強度が低下するため、地下水位を常にすべり面以下にする必要があり、井戸をほり排水を行う。

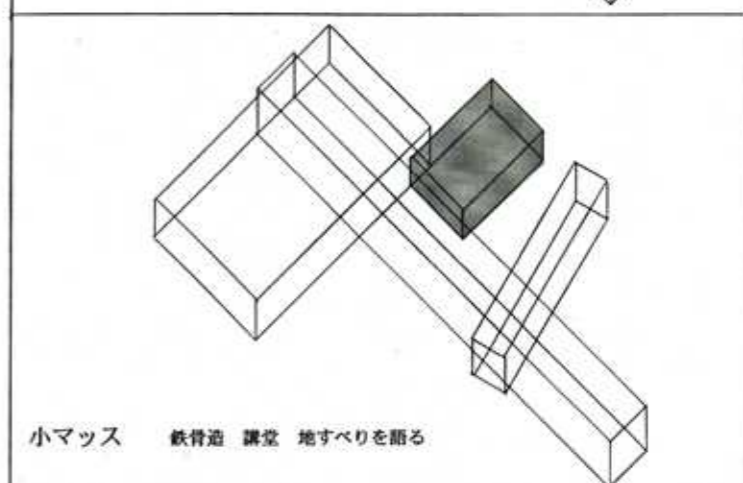
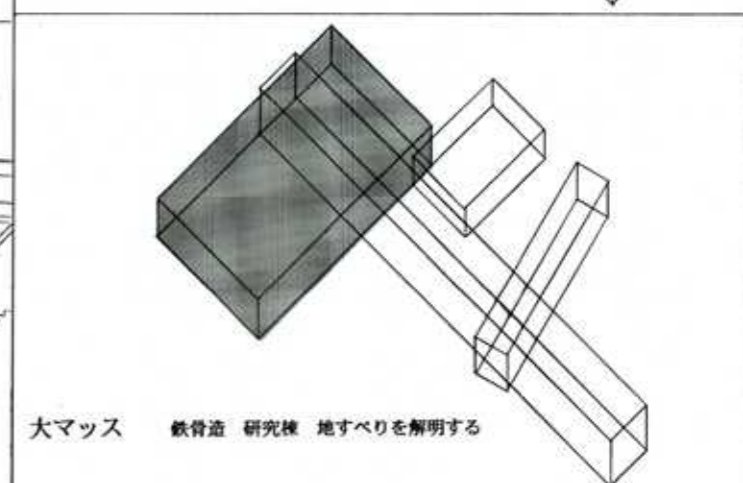
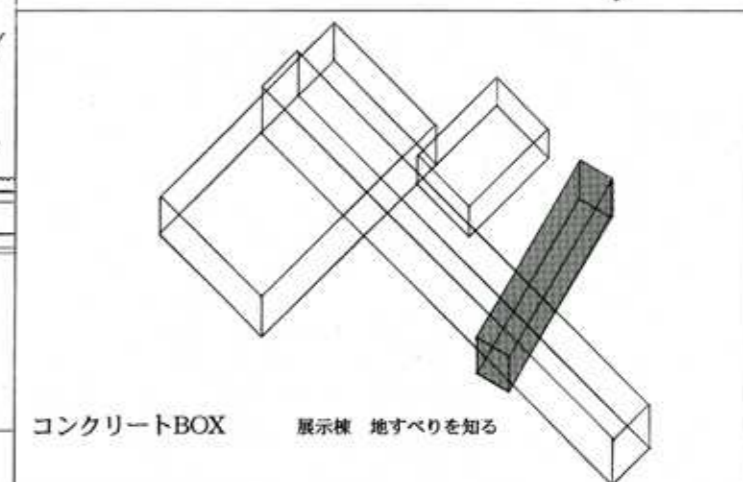
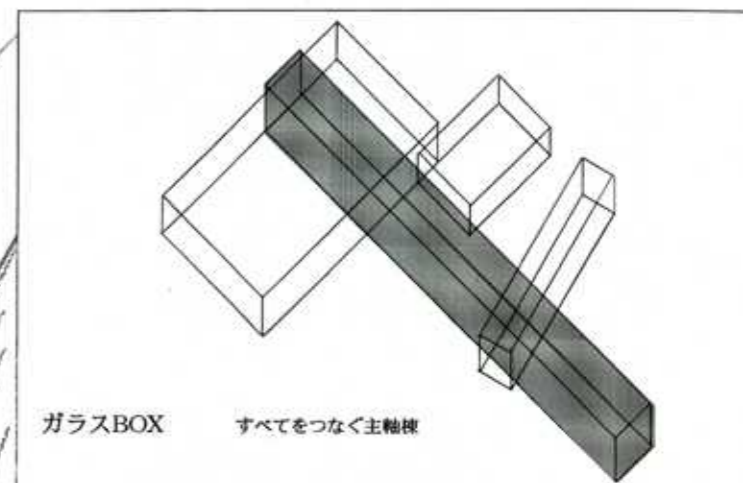
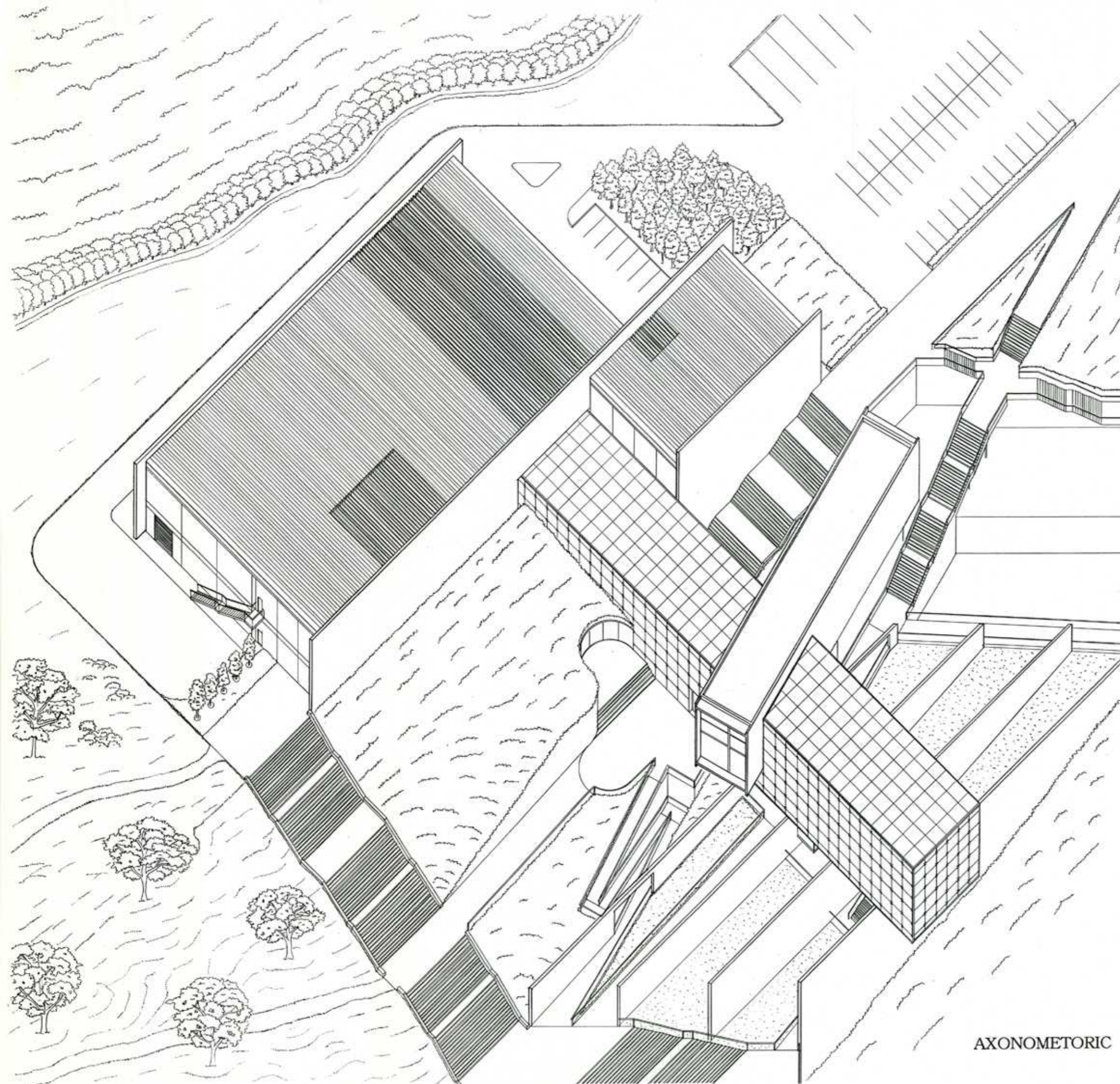


バードライン建設前の地附山

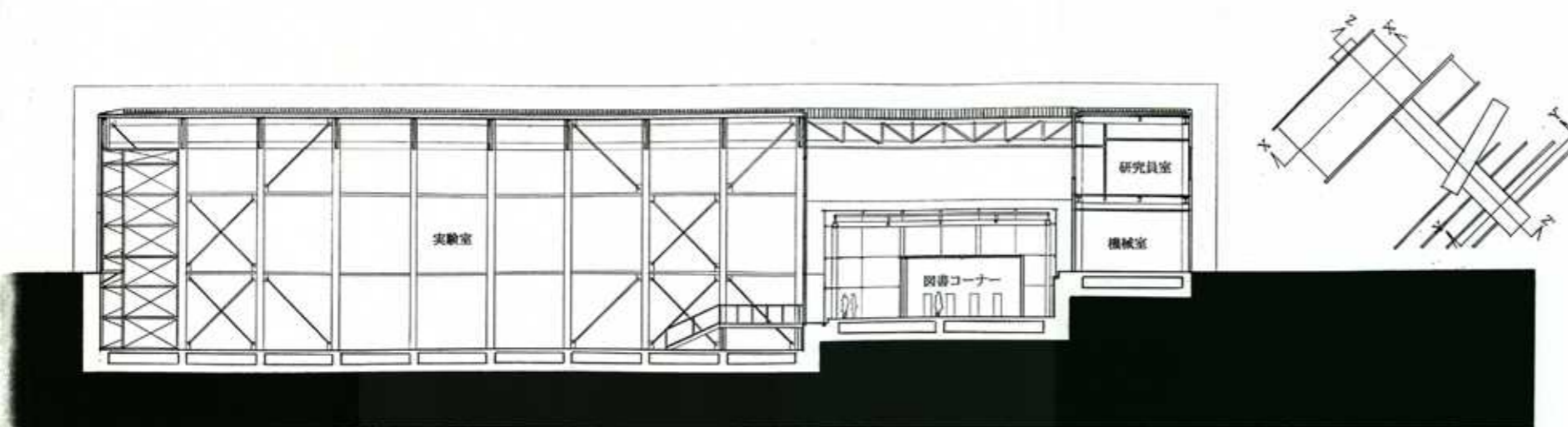
バードライン建設後の地附山

地すべり発生時の地附山

地すべりから復旧後の地附山

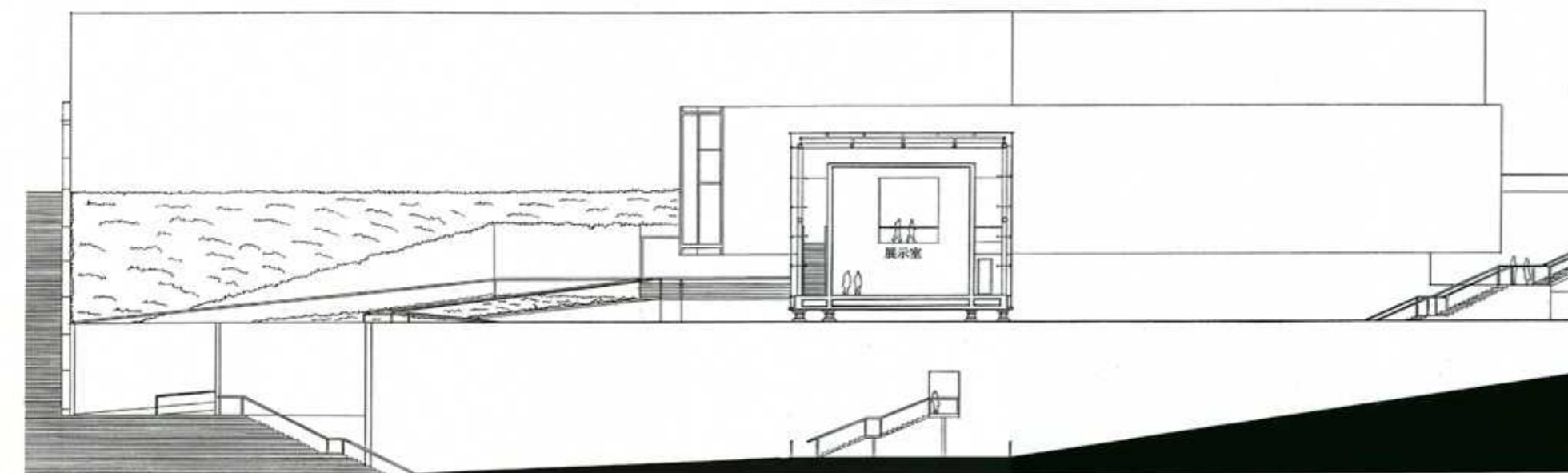


AXONOMETRIC



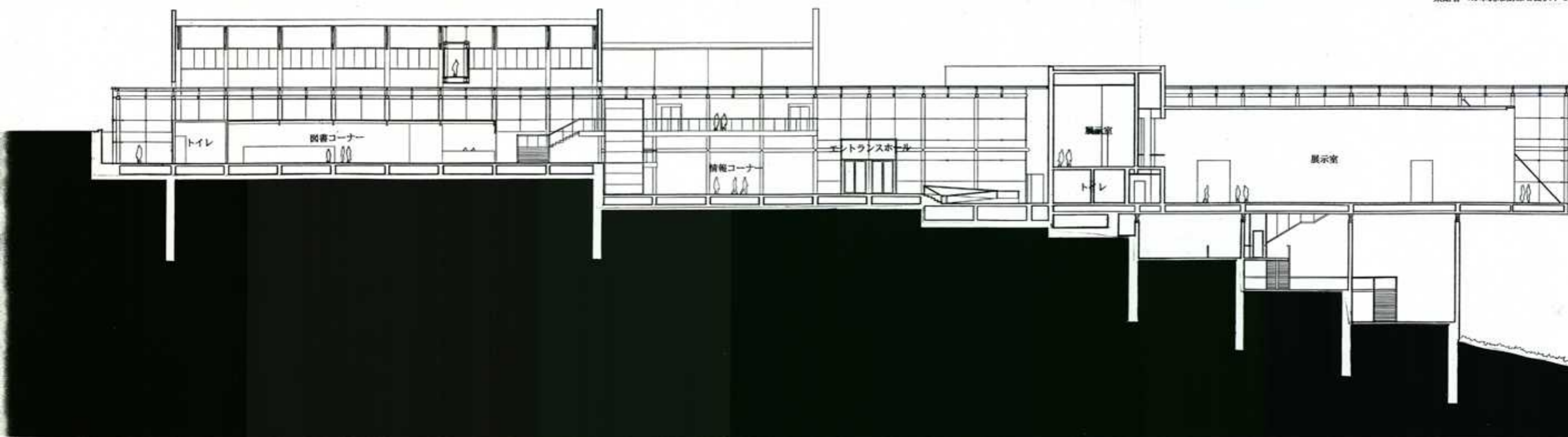
X-X' SECTION 1:200

0 1 2 5 10m



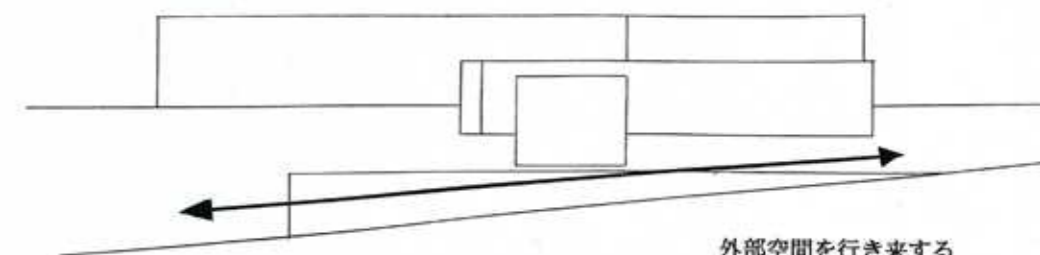
Y-Y' SECTION 1:200

0 1 2 5 10m

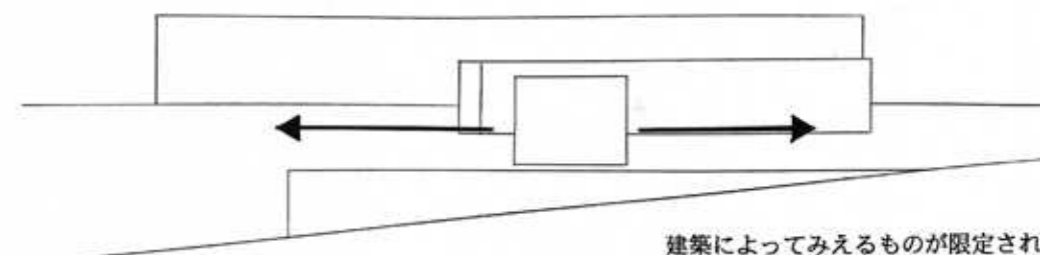


Z-Z' SECTION 1:200

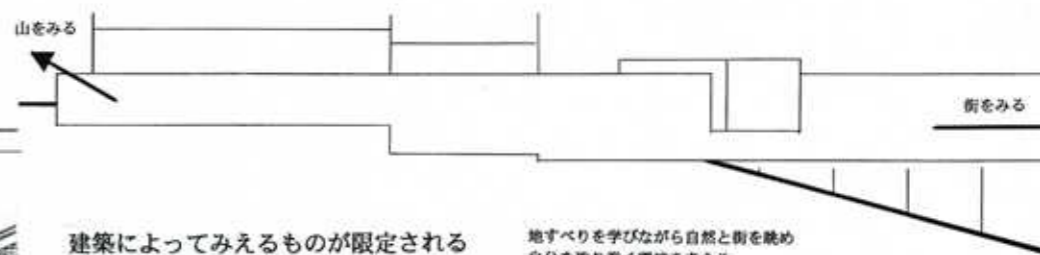
0 1 2 5 10m



外部空間を行き来する
ガラスBOX下の空間は外部空間をつなぎ
常時、底と広場を開放する

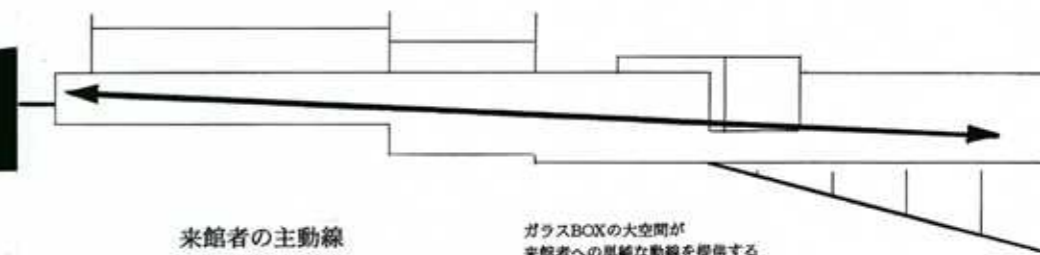


建築によって見えるものが限定される
コンクリート壁は景色をさえぎり
人が思考する時間を与える



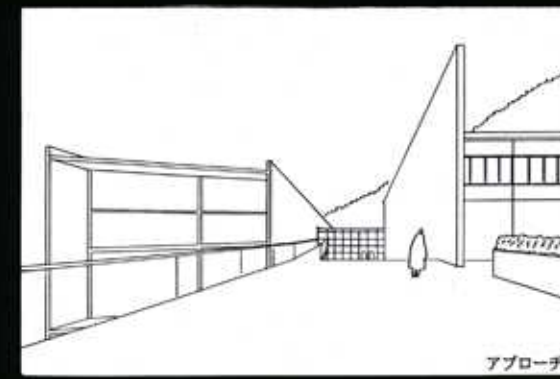
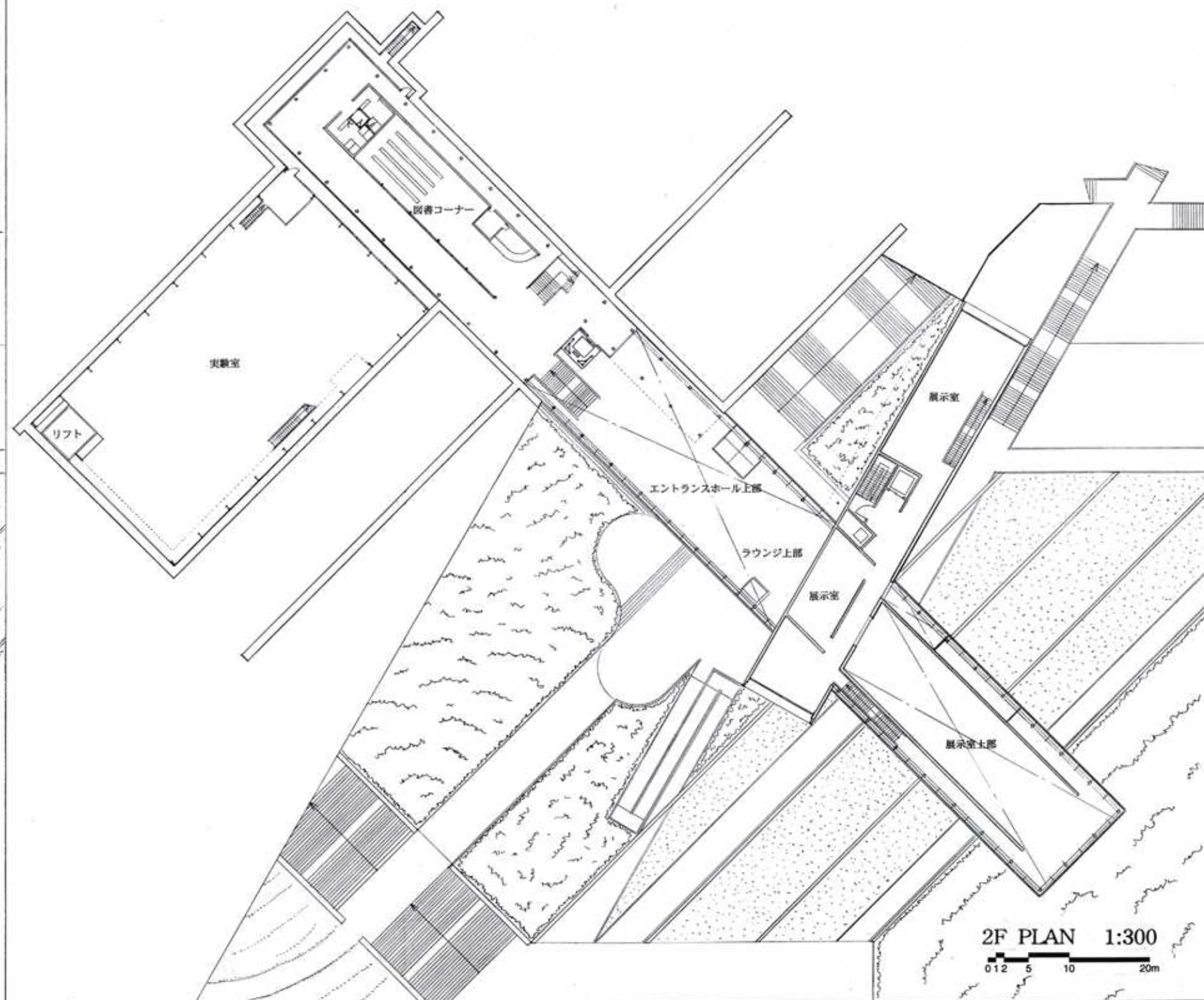
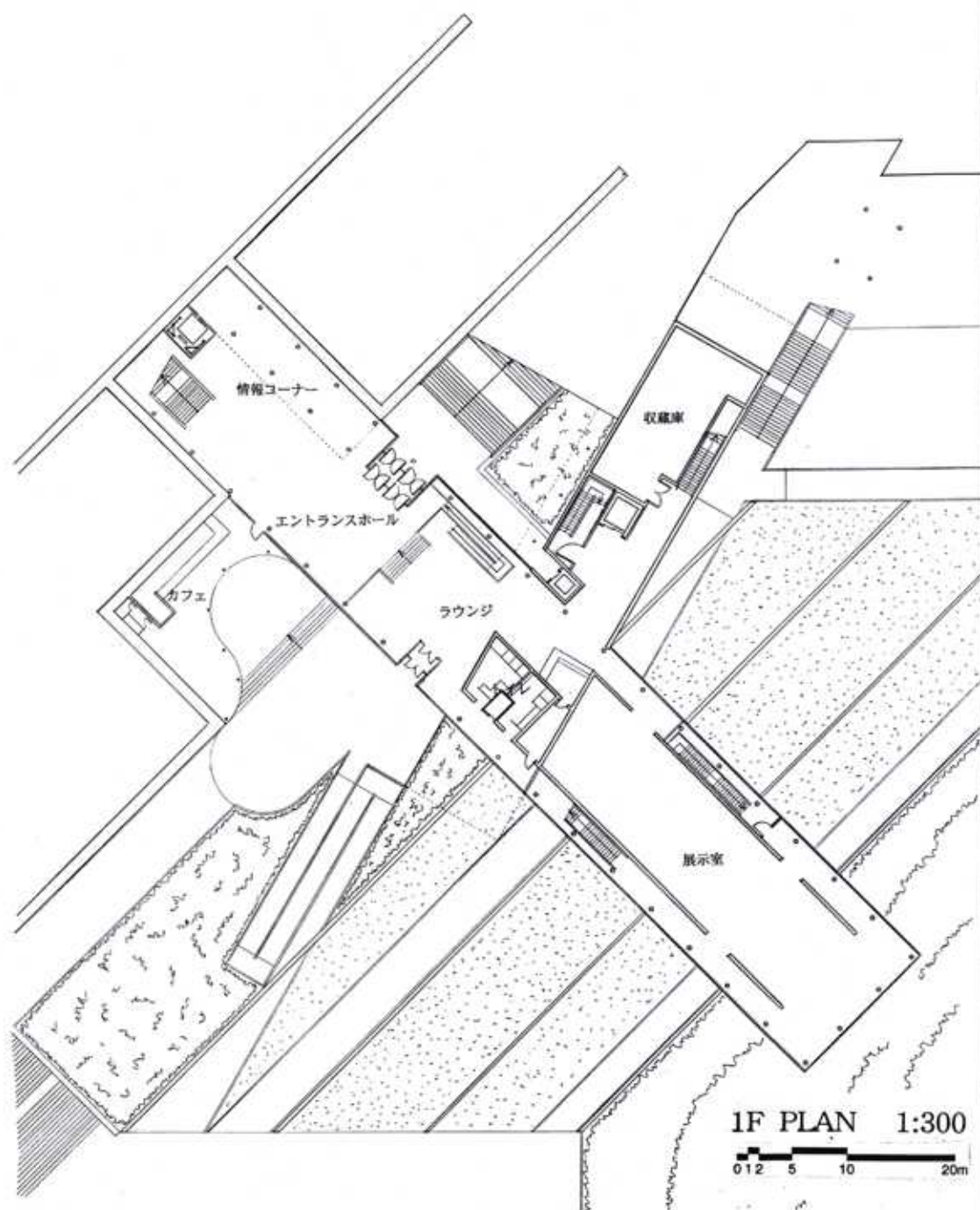
建築によって見えるものが限定される

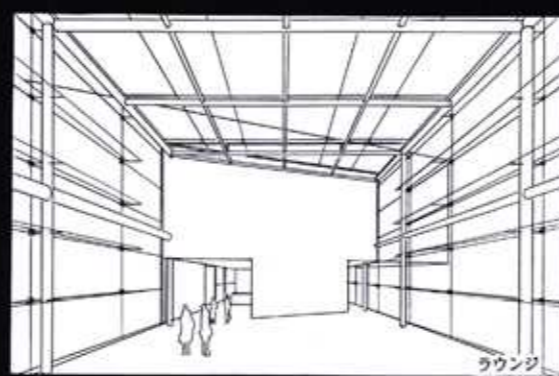
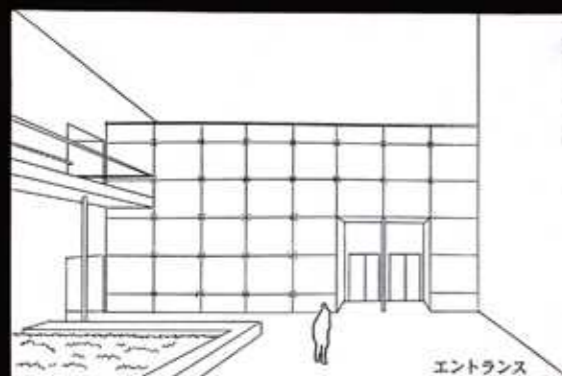
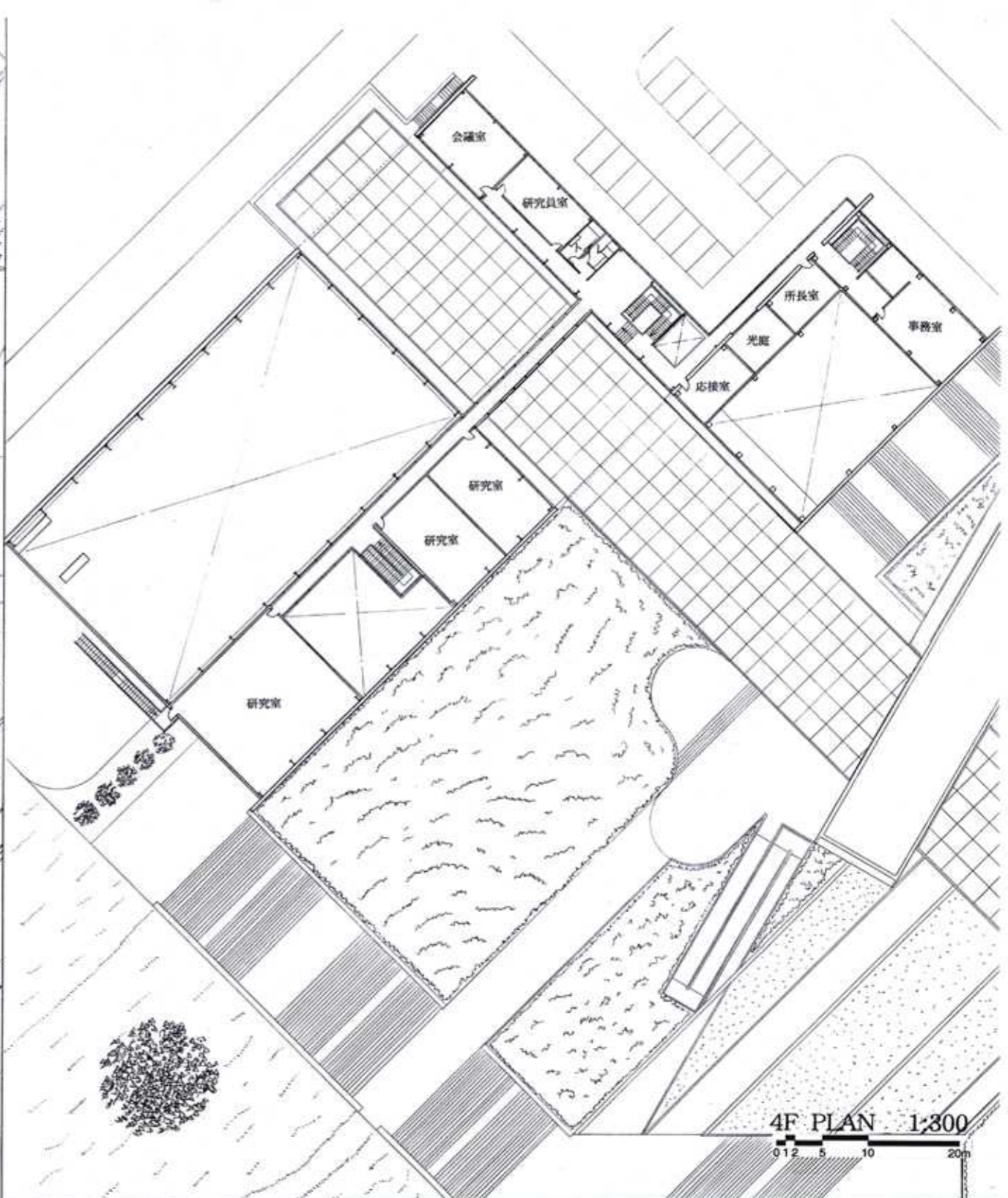
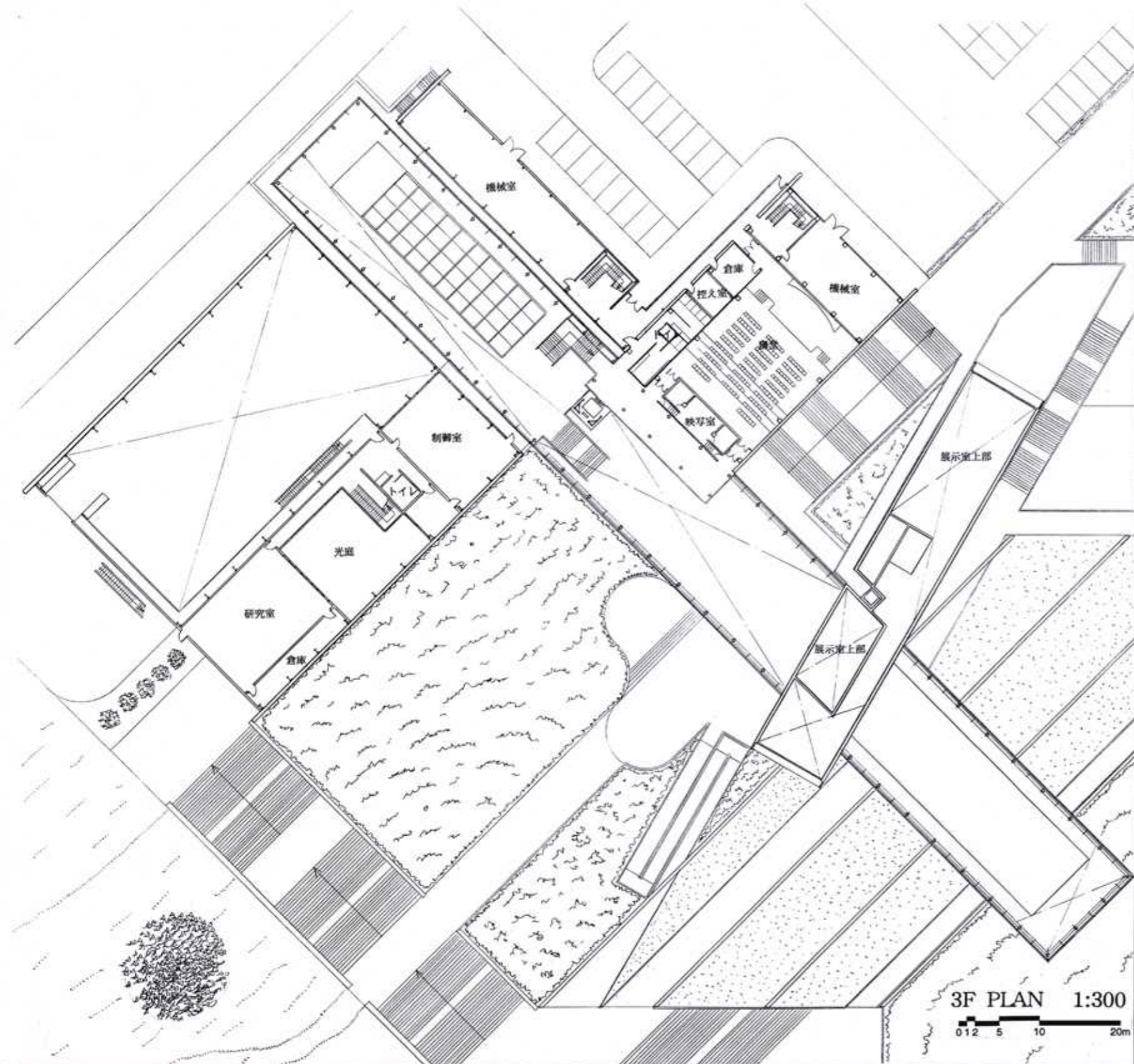
地すべりを学びながら自然と街を眺め
自分を取り巻く環境を考える

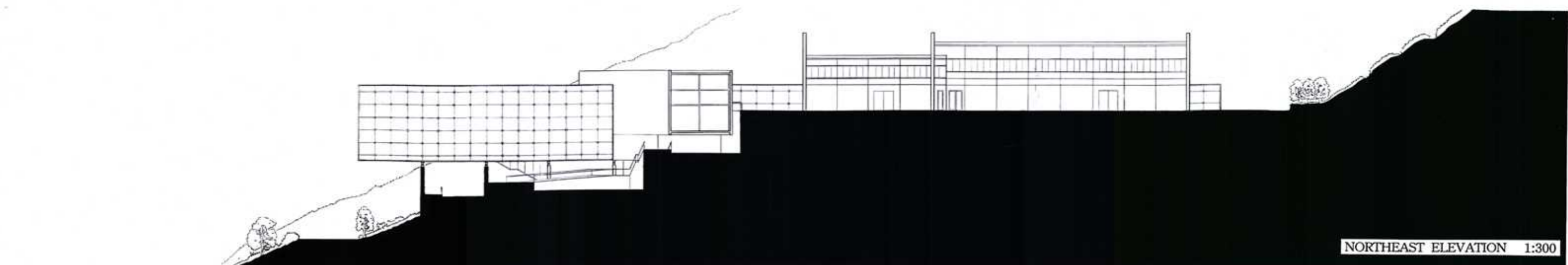


来館者の主動線

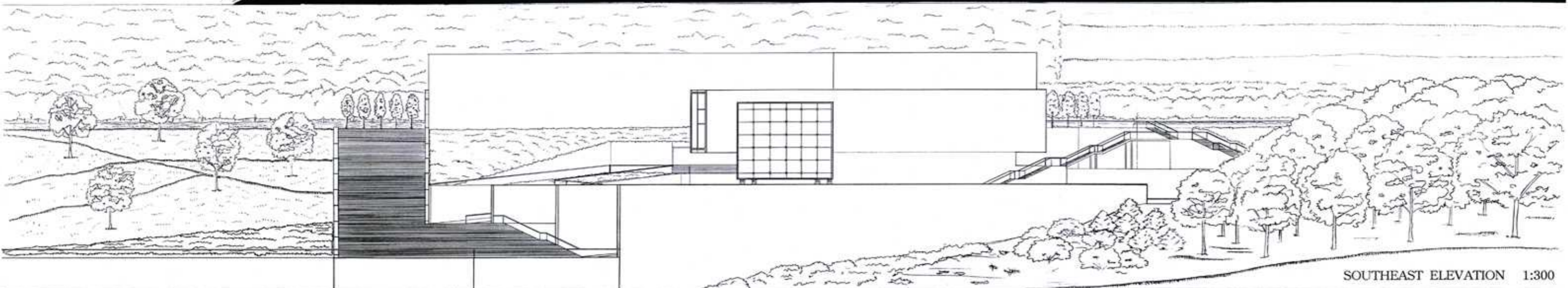
ガラスBOXの大きな空間が
来館者への単純な動線を提供する



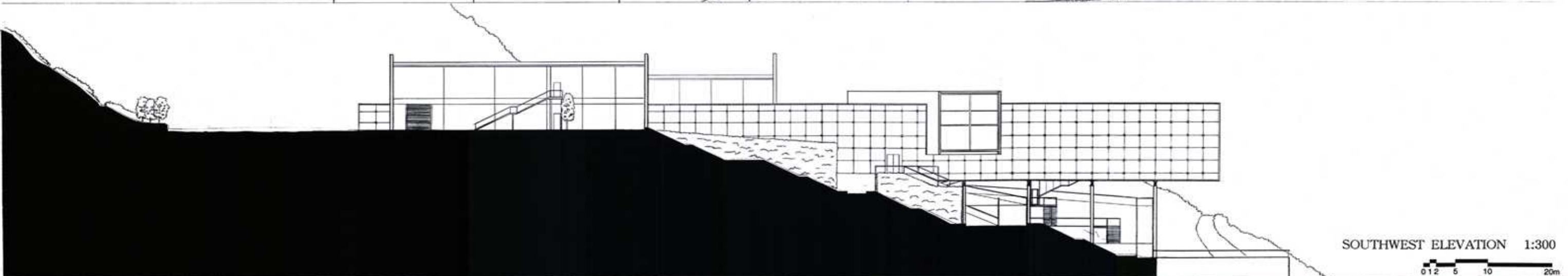




NORTHEAST ELEVATION 1:300

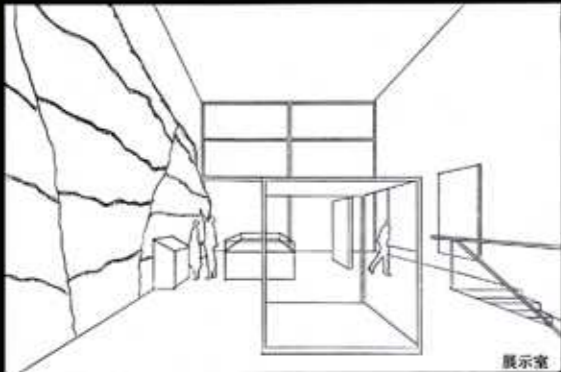


SOUTHEAST ELEVATION 1:300

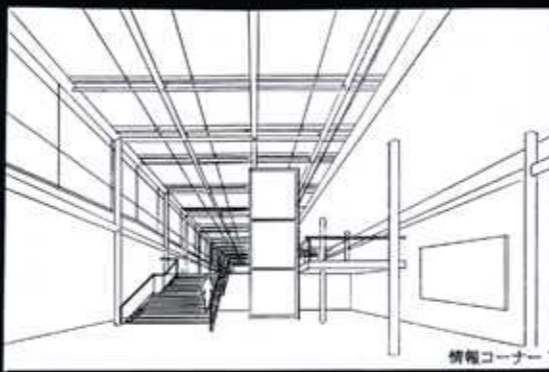


SOUTHWEST ELEVATION 1:300

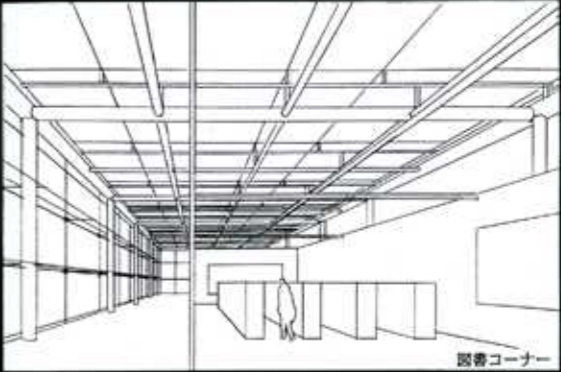
0 1 2 5 10 20m



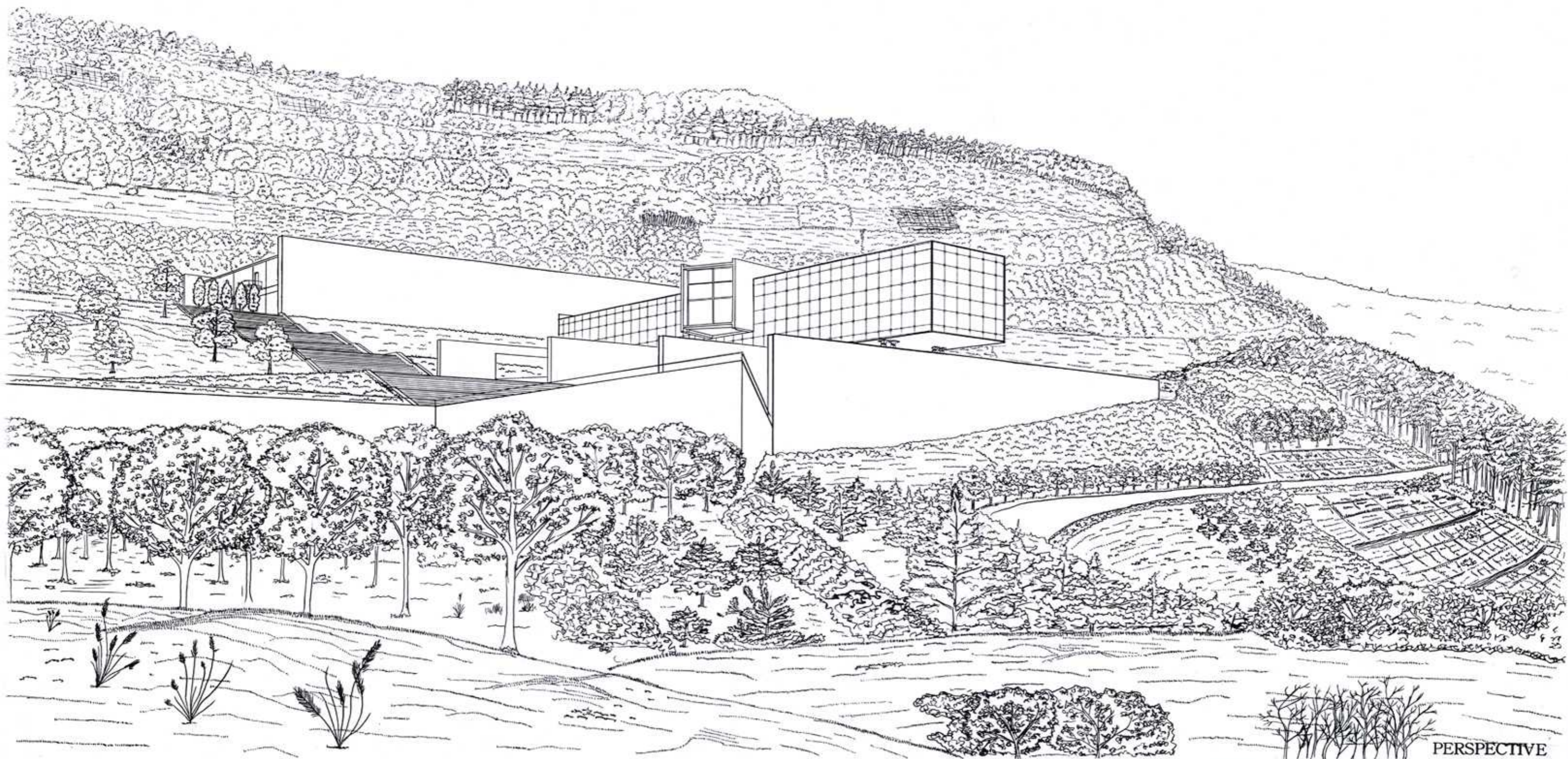
展示室



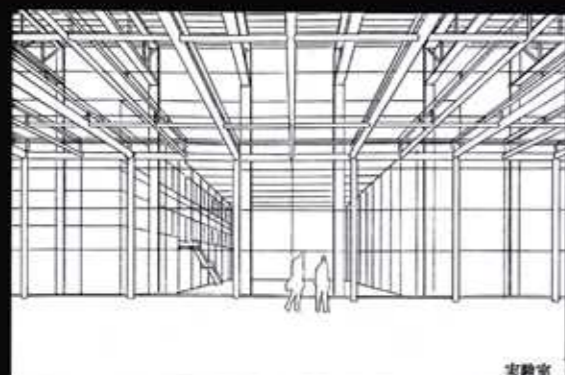
情報コーナー



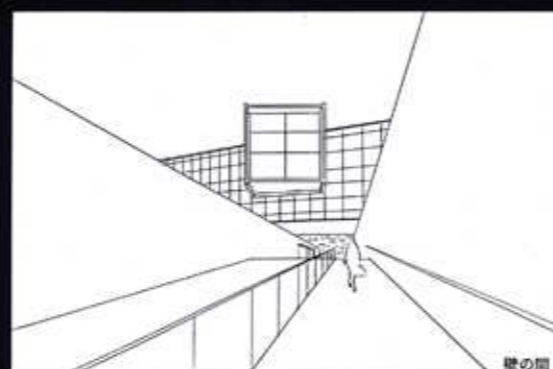
図書コーナー



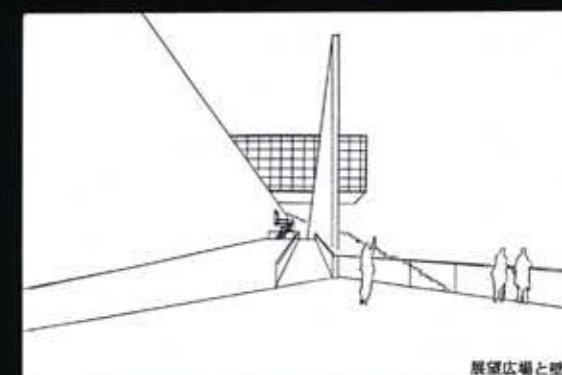
PERSPECTIVE



実験室



壁の間



展望広場と壁